

<会員による自著紹介> * 紹介者である会員

アクティブラーニングの技法・授業デザイン

安永 悟¹⁾*・関田一彦²⁾・
水野正朗³⁾ (編著)

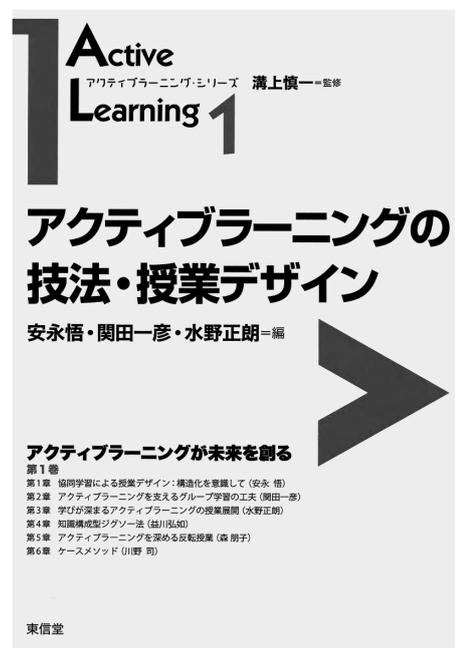
¹⁾ 久留米大学

²⁾ 創価大学

³⁾ 名古屋市立桜台高等学校

東信堂 (2016 年発行)

定価 1,600 円 (税別)



昨今のアクティブラーニング (AL) の流行に、小学校から大学まで教育現場は少なからず戸惑い、教育関係者の間にも混乱が見られます。この流行の火付け役の一人、京都大学の溝上慎一氏が、その責任を感じて企画・監修した高校・大学教員向けの全7巻シリーズの1巻目が本書です。

7巻シリーズにおける本書の役割は大きく2つありました。1つはALと称される様々な学習活動 (あるいは授業方法) の要である、学習者同士の生産的な関わり合い (相互作用) について、関わり方を規定する活動や課題の構造を「協同学習」という理論的視座から検討することでした。もう1つはジグソー法、ケースメソッド、そして反転授業といったALの中でも注目される学習方法や授業デザインを紹介しながら、そうした技法・方法の背後にある理論や視点について、ハウツーを超えた理解を読者に促すことでした。

ALは、教授から学習へのパラダイム転換の過程で生じる授業実践の工夫です。そこには様々な工夫があり、そのいくつかには技法・方法としての名称がついています。そうした工夫は様々であっても、その目的は学習者の主体的な学びを支援・促進することです。そのための留意点をデザインと技法・方法という視点から考えるきっかけになればと思って編集しました。

各章の内容は次の通りです。第1章では「構造化」をキーワードとして、様々な学習活動の手順明示の実際とそのねらいについて解説しています。第2章は協同学習の視点から、学習者間の生産的な相互作用の効用について述べています。第3章では、話し合いを深化させる方法について、学習課題の立て方と学習者の関わり方の両方から、そのプロセスが述べられています。第4章は知識構成型ジグソー法と呼ばれる学習方法について、その活動手順が簡明に述べられています。第5章では、アクティブラーニングを生み出す授業デザインとしての反転授業について解説しています。そして、最後の第6章はアクティブラーニングを組み込んだ授業デザインとして、ケースメソッドの事例を紹介しています。

本書がALの理解、およびAL型授業の計画・実践に役立てば幸いです。